

「田舎でござる」

矢島勝昭

① 駿河台辻番所へ捨てられた芋

●雑司ヶ谷方面の百姓が、畑から掘り出したばかりの土芋を小便樽へ詰めて、慶応2年8月14日の早朝、駿河台鈴木町(神田駿河台二丁目)の辻番所の外へ捨てていったという。

寝ていた辻番が物音で目を覚まし、戸を開けると、人影もない道中に小便樽が二つ置いてあった。蓋を開けると土芋がおよそ五貫目(約20キログラム)ほど詰まっている。

「きっと、運んできた百姓が何処かで休んでいるんだろう」

辻番が家の中へ引っ込もうとすると、向こうから天秤棒を持った見知らぬ親父がまごまごしながらやってきた。辻番が

「これは貴様の芋か」というと

「いや、わしは知らん」と親父

「だが、何故そんなに、まごまごしているんだ」と辻番

「わしは畑の肥やしの糞をとりに参った者なんだが、相手のお屋敷が一向に見つからないので、まごまごしているんだ」と親父

辻番は首をかしげ

「さてさてこの土芋、誰かが畑から盗んできて、この辺で売りさばくつもりでいたんだらうが、後から親父がのそのそ付けてきたもんで、見つかったなど勘違いして、ここへ捨て去ったに違いあるまい」と、さっそく番所へ張り紙をだした。

『土芋一荷捨てていった者あり、心当たりの者はすぐさま申し出るべし』。

土芋の 子が沢山に困りはて

捨てて安堵を駿河台なり

月見よと いもが子供の寝入りしを

おこして捨ててどう駿河台

(『藤岡屋日記』須藤由蔵1804~1868

「豊島区史資料編三」より)

② 与作兵衛の呪文が聞こえる

●早稲田馬場下町三つ辻の裏に、与作兵衛という百姓が住んでおった。この男、節分の夕方には、道の真ん中でイワシの頭を焼くのが習わし。道が

通れなくなるほど子供が大勢たかる中、先ず豆殻を燃やして節分の豆を煎り、次にイワシの頭を刺したヒイラギの枝を三度傾けて呪文を唱えながら三度焼く。

与作兵衛の呪文はむかしからあったもので、文化・文政の頃も、高田村や雑司ヶ谷村の農家の古老たちは、小声で唱える人もおったそうじゃ。

稲の虫の 口を焼き

麦の虫の 口を焼き

アワ、ヒエ、キビやそのほかの

あらゆる虫の 口を焼き

大豆に小豆 うりになす

かぶら だいこにいたるまで

あらゆる作物 成りものの

根喰い 葉喰いの 虫どもの

あらゆる口を つんむしり

地ねずみ 田ねずみ もぐらもち

まとめて舌焼き 口を焼き

焼けてたかれた その臭さ

おらん隣のばあさまの

おべべの臭さよ おっほっほ

おっほっほーの ほーいほい

(『若葉抄一』金子直徳1811年以降の作

「豊島区史資料編三・与作兵衛」より)

③ 雑司ヶ谷農村の十二ヶ月

一月 いそがし大根洗い 餅切り薪切り沢庵漬け

二月 苦手は初雷 小便溜めも凍りつく

三月 寒さも遠ざかり 鶯鳴いて梅も咲く

四月 吉野の桜も咲いて 蛙顔だしへびも這う

五月 こたつの納め時 新茶管笠ホトトギス

六月 麦刈り行水始め ノミも飛び出す蚊帳初め

七月 鳴くのはキリギリス 法師ミンミン夏の唄

八月 畑じゃナスキュウリ トウナス供え盆迎え

九月 苦労は大嵐 蚊帳に行水別れ月

十月 十五夜芋掘って そろそろ半纏まとうころ

霜月 霜焼け足袋はじめ あかざれ用心麦を蒔く

師走 白雪正月迎え 竹切り餅つき芋洗い

(『雑司が谷柳下家日記』1896~1899

「豊島区史資料編四」より 編纂)

まちづくりニュース

63

2005・3

●企画・発行

池袋南地区まちづくりの会
豊島区都市整備部住環境整備課
直通 3981-0489 / 森・中島・鳥居

●編集協力

株式会社 エコライン

5706-6031 / 小野

豊島区広報印刷物

ぞうじがや

雨にもめげず

防災まちづくりイベント

昨年、10月31日に第2回防災まちづくりイベントが開催されました。

実は前日まで雨が降り開催も危ぶまれていました。しかし当日は晴れ。グラウンドがぬかるんで使えないため、会場を正門前に変更して行いました。そのため、SLや煙体験は中止となってしまいました。楽しみにされていた方々にはお詫び申し上げます。変則的な開催ながらたくさんの方々が会場に足を運び、防災訓練や食べ物などを楽しみました。

イベントでは、投てき水パックや水消火器、防災井戸めぐりなどを行いました。また地区の大きな地図にまちの名物を書き込んでもらうコーナーでは、一生懸命書き込む人、それを見る人がたくさん集まって、地区の話題に花が咲いていました。焼ソバやソースせんべい、ポップコーンなどの食べ物のコーナーも大人気。

イベントの1週間前に、新潟県中越地震が発生しました。まちづくりの会では、急遽、募金箱を用意して、参加者の皆さんに募金を呼びかけました。多くの方にご協力いただき、21901円もの義援金を集めることができました。このお金は豊島区を通じて、豊島区の災害協定都市である魚沼市(旧堀之内町)に届けました。ご協力いただいた皆さんに、改めてお礼申し上げます。

また、このイベントは、地元の各町会、商店会、企業などの協賛によって開催することができました。ご協力いただいた皆さんに、紙面を借りて感謝申し上げます。



揺れる大地

新潟県中越地震

昨年は大きな地震が相次ぎました。10月23日には新潟県中越地震、12月26日にはインド洋スマトラ沖でマグニチュード9.0という記録的な大地震と大津波が発生しました。

新潟県中越地震の被災地では40人の方が亡くなられ、2800棟の建物が全壊し、15万棟以上の建物が被害を受けました。電気、水道などのライフラインも大きな被害を受けました。地震の発生と共に学校などには住民が避難し、多い時には15万人の方々が避難所生活を送りました。

あれから半年。冬の訪れと共に仮設住宅が建設され、避難所は次々と閉鎖されました。しかしこの冬の記録的な豪雪もあって復旧はなかなか進んでいない状況です。

会では、防災まちづくりイベントで寄付いただいた義援金を魚沼市に送りました。このほど、魚沼市長からお礼の手紙が届きましたのでご紹介します。

首都直下型地震

時を同じくして国の中央防災会議は、首都圏でいつ発生してもおかしくないと言われる直下型地震の被害想定を発表しました。

それによると、被害が最も大きくなるケースでは、東京の地盤の悪いところでは震度7、豊島区でも震度6強になると予想されています。震度6強の揺れになると構造的に弱い建物は倒壊する恐れがあり、火災も発生する可能性があります。地震による死者数は、東京都では7800人と想定されています。火災による死者数が最も多く4700人。次いで建物の倒壊によって2200人という想定になっています。

池袋南地区でも

池袋南地区では、火災の危険度はやや低いと思われませんが、老朽化した建物がたくさん残っています。地盤の悪い所では、建物が倒壊する恐れがあります。ライフラインも被害は免れないので、例えば建物が倒壊に至らなくても、生活には大きな支障が出ることが予測されます。

地震はいつ発生するか判りません。そのため普段の備えがなかなか進まないのも事実です。しかし備えが役立つのも地震の時です。建物の安全性はもちろん、家の中の安全性を見直し、できることから少しずつ備えを行っていききたいものです。

まちづくりの会が行っている井戸の整備や電柱の移設も、まちの備えです。少しずつ、まちの安全性を高めていききたいものです。

池袋南防災まちづくりの会 様

新潟県魚沼市長 星野芳昭

新潟県中越大震災に伴う義援金の御礼

震災から早3ヶ月が過ぎ、魚沼の地は一面銀世界となっています。

昨年の10月23日午後5時56分、夕餉の準備にいそむ暖かな家庭に予期せぬ大地震が襲いました。真暗闇の中、多くの住民が屋外で余震の恐怖に震えながら幾夜を過ごしました。

11月1日から新たに魚沼市としてスタートする直前の大惨事となりました。魚沼市全体としては、死者8人、全半壊家屋500棟余、一部損壊住宅は1千を超え、ライフラインが途絶え、道路は寸断され、山は崩れ生活の場は失われた住民が多く出ました。

そのような中、避難所や屋外で生活する多くの住民にとって、皆さまから心のこもった義援金ならびに救援物資が届けられ、不便な生活の中ではありますが、身も心も温められました。

現在も断続的に余震が続いてありますが、全体的には徐々に普段の生活を取り戻してきています。

皆さまの救援の手が生活の支えとなりました。多くの住民からお礼の気持ちが寄せられています。市民を代表して心からお礼申し上げます。

前途多難な船出となった魚沼市ですが、早い復興に全力で取り組み、豊かで美しい地域とすることを誓い申し上げ、取り急ぎお礼申し上げます。

たいへんありがとうございました。

まちの話題

南池袋二丁目にしゃれた街並みを

東通りの北側、南池袋二丁目の環状5の1の周辺地区で新しいまちづくりが始まりました。この地区を東京都は「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」の「街並み再生地区」に指定し「街並み再生方針」を策定しました。



これは敷地の統合や行き止まり道路の付替えなどを行いながら、共同建替え等の街づくりを進めることにより、魅力ある街並みを実現しようとするものです。

この方針に基づき区では、街区等での関係する皆様との話し合いを進め、合意形成の整ったエリアから、都市計画の手続き、事業の着手へと進めていきます。

地区内の南池袋二丁目46番街区では、平成15年7月に地元の地権者有志による勉強会が発足し、平成16年9月に地権者協議会へと発展させ、方針に沿った地元主体の街づくりが進められています。

●お問い合わせは……開発企画担当係長 (TEL) 3981-1341

「かざぐるま」再発見

本誌連載の「雑司が谷発見」でお馴染みの矢島さんが講師となって、「江戸の玩具『かざぐるま』の再発見」と題したワークショップが開催されます。

これは、NPO法人地域再生プログラムが取り組んでいる目白通りアート・プロジェクトの一環で、目白通り沿いの変化に富んだ地形や街並みを形作る建築、庭園、そこで活躍する人々を掘り起こし、つないでいくことをめざしています。

今回は、5月20日から6月4日に第1回プロジェクトを開催します。

- 日時：平成17年4月16日(土) PM1:30～4:30
- 会場：千登世橋社会教育センター 第二会議室(雑司が谷3-1-7)
- 内容：①矢島勝昭さんのお話「雑司が谷とかざぐるま」(PM1:30～3:00)
ワークショップ「江戸時代のかざぐるまを作ってみよう」
②懇親会 (PM3:10～4:30)

●参加費：500円 懇親会参加費：1,000円

●定員：30名程度(予約不要)

☆連絡先：「目白通りアート・プロジェクト」実行委員会

E-mail: ch_minno@npo-rprogram.jp 携帯：080-5384-6194

知っていますが救援センター

豊島区では、大地震などの災害時に避難する時、まず最寄の救援センター校に集まり、そこで情報を受け取り、必要に応じて広域避難場所に避難することにしています。救援センター校には区の職員も駆けつけ、災害時の応急体制の拠点となります。大きな火災が発生しない場合や、家が壊れて帰れない時は、救援センター校が避難所となります。

学校の統廃合によって、地区の救援センター校が変わりました。このニュースの配布地域の町会は右のようになります。

救援センター校	対象町会
旧南池袋小学校 (高田小学校跡地)	光和会 青葉会 雑司が谷一丁目町会 雑司が谷一丁目東部町会 柳下会 雑司が谷二丁目町会 雑司が谷三丁目町会 東目白本町会
南池袋小学校	南池袋一丁目町会 南池袋二三四町会 池袋東口親和町会 池袋日出町会

あれこれ